

災害時危機管理と期待される人材像 ～情報セキュリティに関連する話題について～

独立行政法人産業技術総合研究所
情報セキュリティ研究センター
渡辺 創

第 36 回 JSiSE 全国大会
2011 年 8 月 31 日

■ デマ情報の流布

■ 電子メール、Twitter

- 何気ない書き込み、事実か想像か曖昧な書き込み
- ある程度は情報源特定可能

■ 善意による拡散⇒風評被害

■ 正しい情報だった情報が混乱の元に変化

- 時間の経過で迷惑に（不要な物資の集積等）
- 「今」のニーズが分かりづらい
- その後ポータルサイト等で整理が進んだが…

- 倉庫で眠っているPCを被災地へ
 - 行政サービスの早期復旧に大いなる貢献
 - 長期間メンテナンスされていない機器
 - システムやソフトウェアが最新状態でない
 - コンピュータウイルス感染の危険性
 - 情報漏えいのリスク
 - 更新処理は貧弱な帯域への負担
 - ソフトウェアライセンスの問題
 - その後もメンテナンスは困難

- サーバの長期停止
 - 漏電の危険、計画停電や節電への対応
 - 電子メールサービスも停止
 - つくばの研究用排水管は 8 月になって復旧
- 携帯電話網を利用した内線システムの不通
- 安否確認の困難性
 - 電子メールの不達、電話の不通
 - 緊急連絡網の強化（Twitter, Skype, Gmail, ...）
 - ネットメディアは比較的利用可能今後は？
- 可能なサービスのクラウド化の検討

支援のあり方について

- まず現地に動くものを提供することが重要
 - 対応、復旧、復興の違い
 - 研究成果の導入は二の次三の次
- 人命とプライバシーの関係
 - もちろん人命が最優先
 - プライバシーを侵害してでも安否確認をすべき
 - 一度漏れると消すことは事実上不可能
 - 情報の共有、コントロールが重要
 - 誰にどんな情報を与えるべきか？

- 集合知は大きな力
 - 一般にある程度のノイズは許容
 - 災害時は最小化することも重要

- それぞれの役割の明確化が必要
- 役割の果たし方のマニュアル化が必要
- 何を知識として身につけるべきかの整理が必要（当事者として、援助者として、…）
- 誰がどこで何を教育するか
- まずは事例を紹介するだけでも有用
 - 「これは確認してからじゃないと…」と思えるように